

天
理
教
歌

014427-000-6

特53-619

天理教歌

辻 藤次(回天学人) / 著

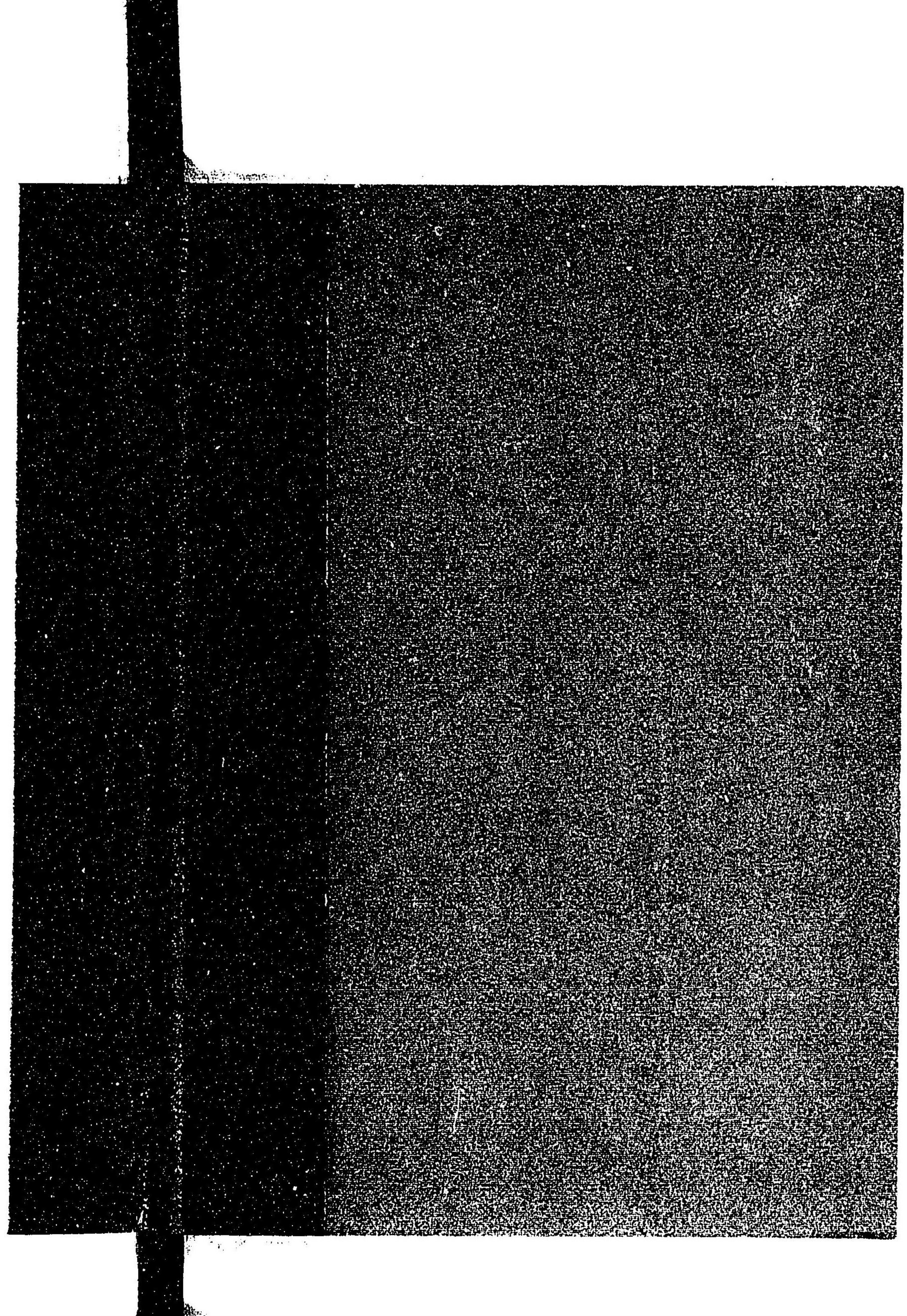
M27

ABB-0805



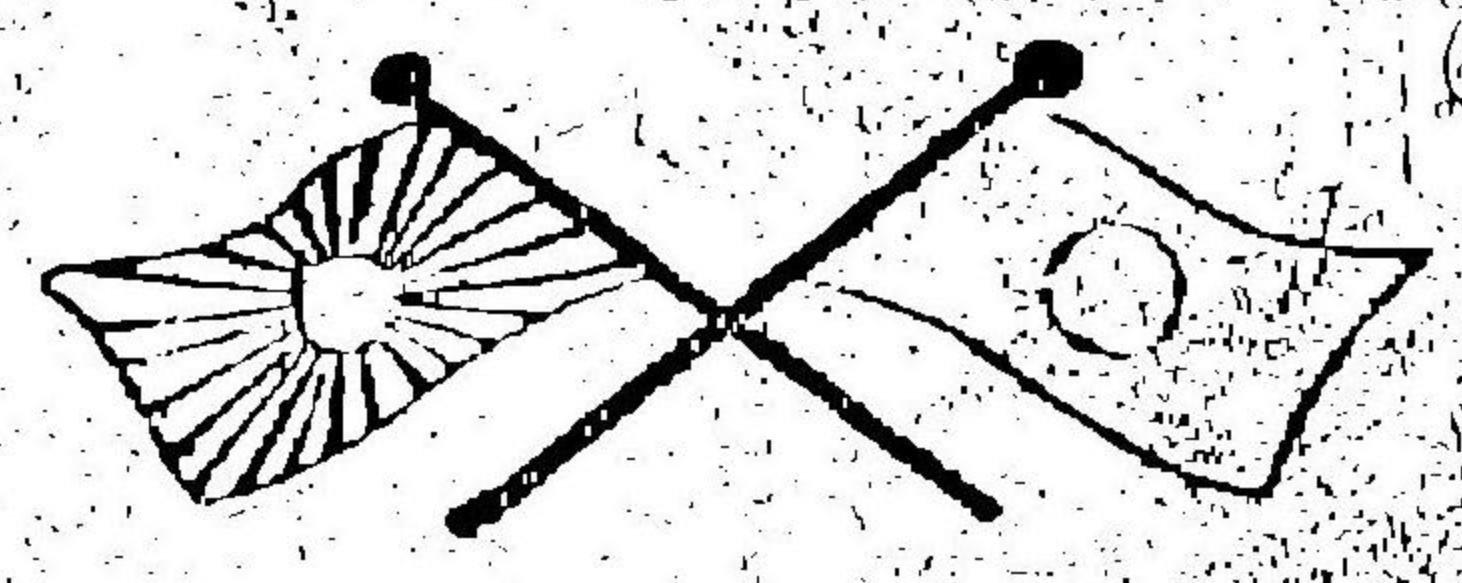
特

61



U-13

52
461



著 生 先 天 回

神道天理教萬歲

天理教歌

大日本帝國萬歲

全

版藏社友新智益

緒言

社會の變遷は常なきが如く是を事物の上ま就て考ふる時は元より氣運の然らゝむる所なり

特 58
619

と雖も實に不可思議の次第なり地上六大洲

ま現今はる、諸宗教の如きも種々に變遷せ

るものなりこれ世界が開明は趣くに從ひ之に

伴ふて進行する能はざる所あるを以てなり近

く是を例せんや洋燈の發明ありて行燈の不便

を知り佛教顯はれて婆羅門教の不完全を悟る

(1)

(2)

電氣燈いで、瓦斯燈の暗きを知り邪蘇教生じ
て猶太教の不良を發見す天理教出で、諸宗教
の是に及ばざるを、然は則天理教は宗教中
の大陽即ち日輪にして邪蘇教佛教儒教等は宛
も電氣燈の如く瓦斯燈の如く洋燈の如きもの
ならん果して然らば瓦斯燈如何に明るきも電
氣燈如何に光りを放つも大陽の光明赫々と
て天地六合を照すま及ばず諸宗教如何に眞理
を説くも天理教の高妙深遠あるに如きを此故

(3)

に天理教は世界無上の我帝國に生ト教祖は特
に大和の國より出たり天理教は此世を始めた
る神の教なり眞理の教なり茲を以て今より幾
年の後には我大日本帝國は勿論世界各國咸天
理教を信仰するに至らん是れ吾人が豫言を憚
らざる所にして社會が如何に變遷するも國家
が如何に開明に向ふも天理の教は益々光輝を
放ちて寸毛の衰微を生ぜざるは彼の日月の光
の太古より今は變らざるが如くなり吾人爰に

(4) 感ずる所ありて天理教歌を作る謠へや人々歌ふべし

明治二十七年甲午の秋

著者志るま

天理教歌

近江 回天學人著述

第壹章 世界

(一) 世界は廣く國多し

神の御裔と稱へくる

優れる國之外になく

神の御裔又違ひなし

(二) 世界萬國宗教の

最も尊き宗教は

何れの國へ至るとも

(5) 優れたる丈それ丈は

多き中にも太古より

我大日本帝國に

外になき丈それだけは

神の御裔又違ひなし

種類は數多あるなれど

眞理で塊めた天理教

これに優れたものはなし

神の教に違ひなし

(6) (三) 世界一列みとらせば

大なるかなその言葉

千萬無限の妙味あり

眞の教に違ひあり

(四) 説てさかしたことがない

恩愛深きそのこゝろ

外にたぐひはなきそかし

優れた教祖に違ひなし

(五) 世界に光りは種々ありて

火光や星光鹽光と

月日の光が第一じや

勝る光りのそれ丈は

(六) 世界教祖のその光

天に列せるもろくの

中にも最も大なる

天理の教法よりくはなし

人を崇め尊みて

僅が數年のその中に

今に宇宙に廣がりて

教祖の恩澤受ぬべし

是ぞ世界に唯一なる

(7) 違ひなき丈それ丈は

胸のわかりたものはない

尽したるのなその意

妙味ある丈それだけは

眞の教にちかひあり

まらぬが無理でわなわいと

慈仁の厚き思召

比ひなき丈それだけは

優れた教祖もちがひなし

電光蟲光燐光に

放つ類ひは多けれど

月日に勝る光なし

優れた光に違ひなし

光りの類多くして

星の光のことくあり

光りを放つ宗教は

宗教中の日月と

歸依する人は日に多く

信徒現今數百万

唐西洋に至るまで

教祖の恵みに浴すべし

完全無缺の宗教に

月日の光りに違ひなし

(8)

第二章

天理の教

(一) 天理の教を信じなば

仰げや人々仰ぐべし

(二) 天理の教を信じなば

安心氣樂に日を送る

(三) 天理の教を信じなば

他の人とりも勝るべし

(四) 天理の教を信じなば

正邪の區別之立ぬべし

(五) 天理の教を信じなば

神の助を受ぬべし

(六) 天理の教を信じなば

眞の幸福至るべし

(七) 天理の教を信じなば

人に後きは取らざるぞ

(八) 天理の教を信じなば

神の冥護を蒙るぞ

(九) 天理の教を信じなば

教へは更に無用ぞや

(十) 天理の教を信じなば

手にてを引て暮すべし

病わづらひはなきものぞ

唯一心に崇めよや

無事息災は延命よ

唯一心に崇めよや

富貴は勿論智恵迄も

唯一心に崇めよや

如何なる惡魔が來る迎も

唯一心に崇めよや

如何なる難儀致する迎も

唯一心に崇めよや

心身共に健康に

唯一心に崇めよや

祖先よ忠と國よ愛

唯一心に崇めよや

現在未來も諸共よ

唯一心に崇めよや

佛教耶蘇教もろくの

唯一心に崇めよや

家内和合にむつまじく

唯一心に崇めよや

(9)

第三章

大和

(10)

(一) 大和の國之昔より

人皇初代の神武帝

斯る由緒の此地より

世界無比なる天理教

一には日本の御光りを

實よ日の本は神の國

外侮を受たことがない

特り日本に限るなり

(二) 二には世界の人人が

信じ迷ふて居る故に

開闢以來の事柄を

世界唯一の宗教は

大和の國は山邊郡

中山教祖の屋敷をば

定め玉ふてこれからは

唐天竺や西洋も

天理の教に化せしめて

特り日本に限るなり

(三) 三には日本の人々が

御國乃教に従はず

異國の教を學ぶ故

薄らぐ時の來つらんと

(11)

名高きのみか我國の

帝位も此處に即玉ふ

此度神が顯之れて

説て聞すと云ふものと

外つ國迄も輝かし

神國なれば昔より

是ぞ世界の歴史上

特り日本にかざるなり

種々様々の教へをば

是等を救はんその爲に

委しく説き誅して

我が日の本が始めだし

三島の里牧地場となし

世界宗教の中心と

如何なる山間海邊も

學者も無學も貴も賤も

眞の幸福享けさすは

特り日本に限るなり

神の御國でありながら

孔子や耶蘇や釋迦佛の

遂には大和魂の

遠き思慮をば立玉ひ

天理の教を基礎となし

天地のあらん限りまで

傳へ布かんと思召

海より深く山をりも

げに有難き事なるぞ

仰げや仰げ天理教

特り日本に限るなり

我國固有の神道を

幾億年の後迄も

その御心の尊とさは

高く限りはあかるべし

勵めや勵め皇國人

かゝる例は他になさぞ

特り日本に限るなり

天理教歌終

U-13

明治廿七年十一月十日 印刷
明治廿七年十一月十五日 發行

著 述者 同天學人 辻 藤 次

發行 滋賀縣蒲生郡南比都佐村大字下駒川八十七番地 增井久治郎

印刷 三重縣鈴鹿郡龜山町大字東九十番地 加藤五百記

滋賀縣甲賀郡水口町

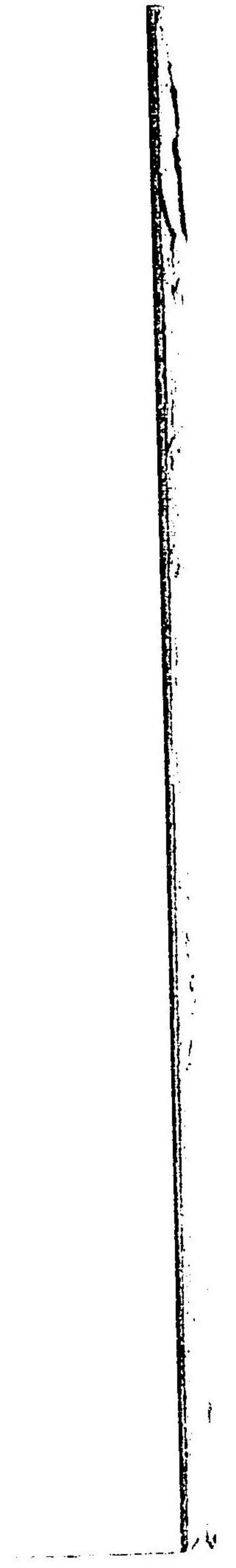
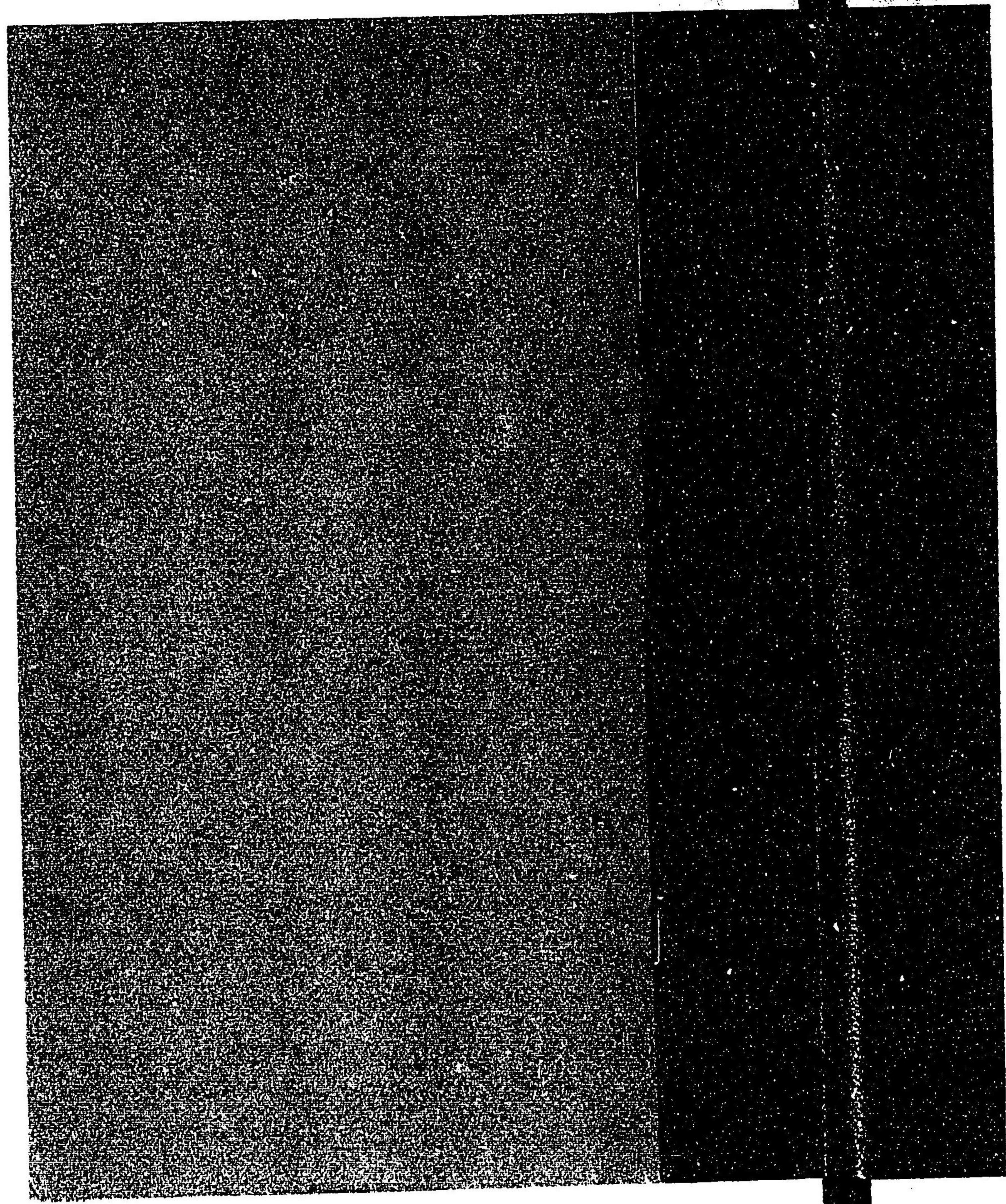
發行所 益智新友社

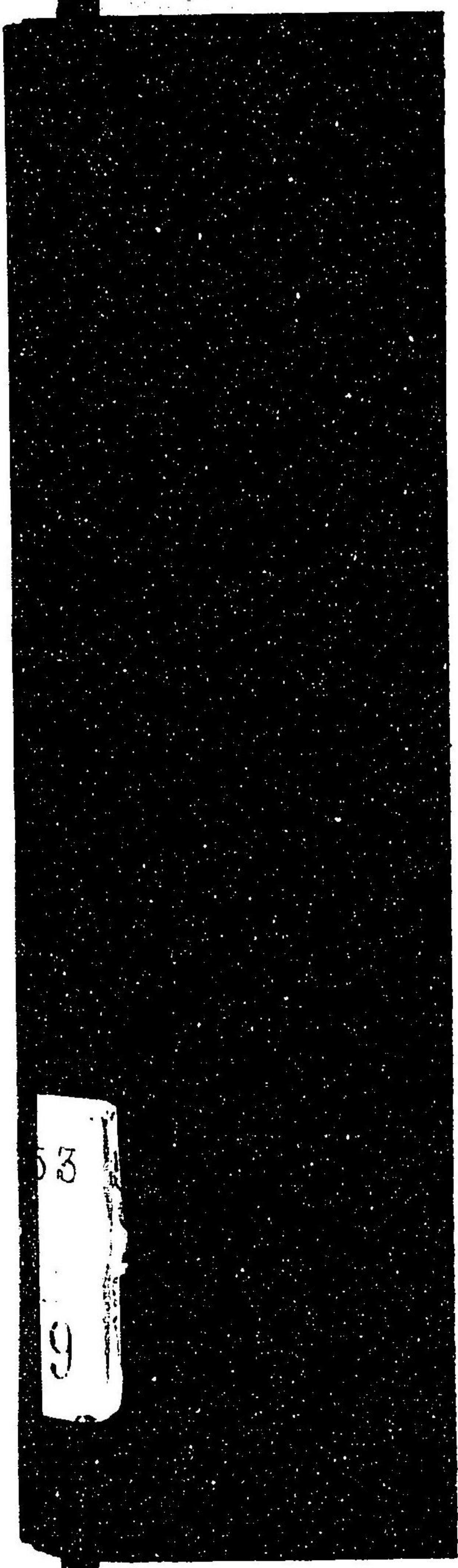
甲賀郡水口町 伏木文三郎

近江大津 澤一二郎

全北 德地平五郎

賣 捌 所





53
9

